

大学における性教育についての一考察

—短期大学生における性意識と性行動の調査から—

小川 真由子・引田 郁美

要旨

本研究の目的は、短期大学生における性行動および性意識に関する調査を行い、現状と課題を明らかにすることであり、今後の大学における性教育の課題を検討する一助とするものである。短期大学部1年生を対象に性意識と性行動に関する質問紙調査を行った。性交経験率は43.4%であり、妊娠経験については、11名が「妊娠の経験あり」と答え、そのうち「妊娠中絶をした」と回答したものが4件あり、望まない妊娠を防ぐための性教育の必要性が伺える結果となった。また、「結婚に関係なく、性行為をしてもいい」と答えたのは48%で、性交経験者への質問のうち、「避妊をしなかった」という回答が12%であった。性についての知識を学ぶものとして望ましいと考えているのは、「学校・教師」が最も多く挙げられ、情報源として多く挙げられた「雑誌・漫画」や「テレビ・ビデオ」、「インターネット」は望ましいものとしては考えていないという結果であった。これまで受けた性教育への印象は否定的なものが多く、大学生の教育や指導のニーズに応えられるような対策に加えて、性教育の授業構成や教授方法の工夫が必要であると考えられる。結婚願望については、65%が「ある」と回答していたが、それ以上に「将来、子どもが欲しいと考えている」回答が76%と上回り、その多くが複数の子どもの希望していた。今後は将来構想についての人生設計を含めた性教育の実施が望まれる。

キーワード：短期大学生、性意識、性行動、情報源、将来構想

1. はじめに

現代の社会環境は目まぐるしく変化し、性に関する問題がより複雑にそして多様化している。とりわけ情報社会の発展は、若者の性意識や性行動に大きな影響を与えている。日本性教育協会の第7回青少年の性行動全国調査報告¹⁾によれば、性交経験率は高校生が男子14.6%、女子が22.5%であるのに対して、大学生は男子が53.7%、女子が46.0%と急激に増えている。高校生までの性教育が重要であることは言うまでもないが、性行動が進む大学生においてもその重要性が重視されるべきであると考えられる。しかし、大学における性教育の内容についての指針は明らかにされておらず、性教育のためのカリキュラムも明記されていないのが現状である。性教育は生涯にわたってなされるべきものであり、豊かな人生を送るためには欠かせないものでなければならない。大学は学生にとって社会に出る前の最後の教育機関となりうる可能性があり、集団で受ける最後の性教育の機会となるかもしれないことも鑑みれば、その担う役割は大きい。そこで、大学における性教育の充実を図ることを検討したいと考えた。本研究の目的

は、短期大学生における性行動および性意識に関する質問紙調査を行い、現状と課題を明らかにすることであり、今後の大学における性教育の課題を検討する一助とするものである。

2. 調査概要

S 大学短期大学部 1 年生を対象に、性行動や性意識に関する質問紙調査を行った。調査時期は 2015 年 7 月であった。調査実施に際し、調査の結果は研究の目的以外に使用することはない、個人が特定されることがないように分析を行うことを説明した後、無記名にて回答してもらった。また、調査への参加は自由意志であり、回答したくない質問には答えなくても良いことを伝え、調査用紙の提出をもって同意が得られたものとするを文章にて明記した。

それによって得られた有効回答をエクセル単純集計により分析した。

3. 結果

3.1. 対象者の属性

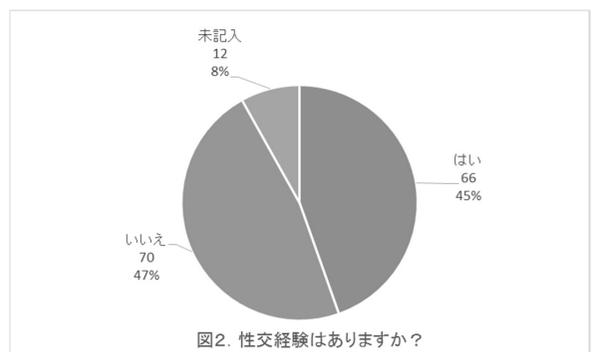
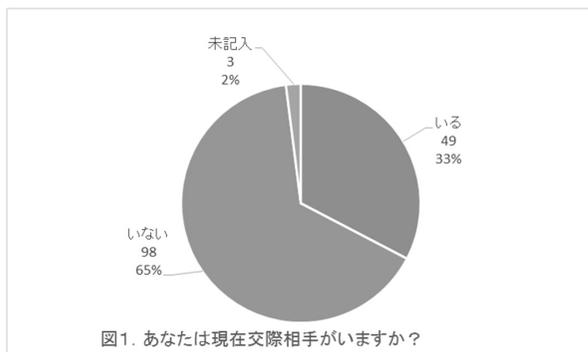
質問紙を依頼した学生 170 名のうち、質問紙の提出があったものは 152 名（男性 16 名、女性 136 名）であり、回収率は 89.4%であった。

3.2. 現状

交際相手の有無については、49 名（33%）が「交際相手がいる」、98 名（65%）が「交際相手がいらない」と答えていた（図 1）。また、性交経験の有無については 66 名（45%）が「性交経験がある」、70 名（47%）が「性交経験がない」という結果であった（図 2）。また、性交経験があると答えたもののうち、平均年齢は約 16.875 歳（ $n=59$ ）であった。

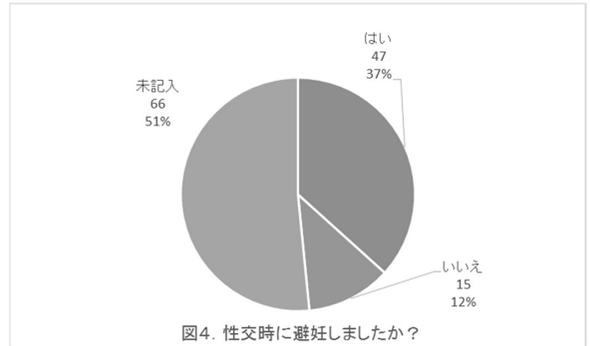
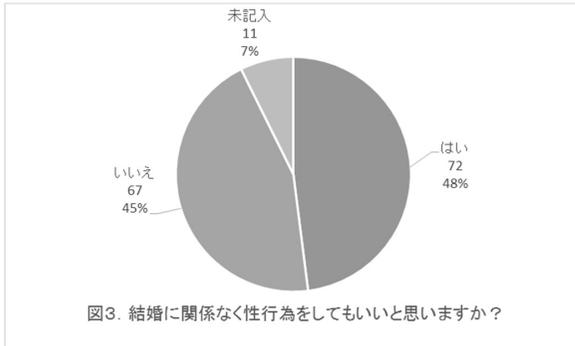
これまでの妊娠経験について、「妊娠したこと、または妊娠させたことはありますか？」という質問に対して、「ある」と答えたものは 11 名、「ない」と答えたものは 111 名であった。妊娠経験があるもののうち、「1 回」は 5 名、「2 回」は 1 名、「3 回」は 3 名、「4 回」は 2 名、「5 回以上」は 0 名であった。

妊娠後、どうしたかという質問に対して、「出産した」が 5 名、「妊娠中絶を受けた」が 4 名、「流産した」が 0 名であった。



3.3. 性意識について

性行為についての意識については72名(48%)が「結婚に関係なく性行為をしてもいいと思う」、67名(45%)が「結婚に関係なく性行為をしてもいいと思わない」と答えていた(図3)。また、性交に関心はあるかという質問に対して、「はい」と答えたのは39名、いいえと答えたのは21名、未記入は68名であった。性交時に避妊したかという質問に対して、「はい」と答えたのは47名(37%)、「いいえ」と答えたのは15名(12%)であった(図4)



避妊法については、「コンドーム」が53件、「膈外射精」が17件、オギノ式(基礎体温表)が1件、「リング」が1件であった。(複数回答可) 避妊しない理由については図5の通りであった。(複数回答可) その他は「コンドームが合わない」、「買うのを忘れた」、「おなかいたくなる」という回答であった。

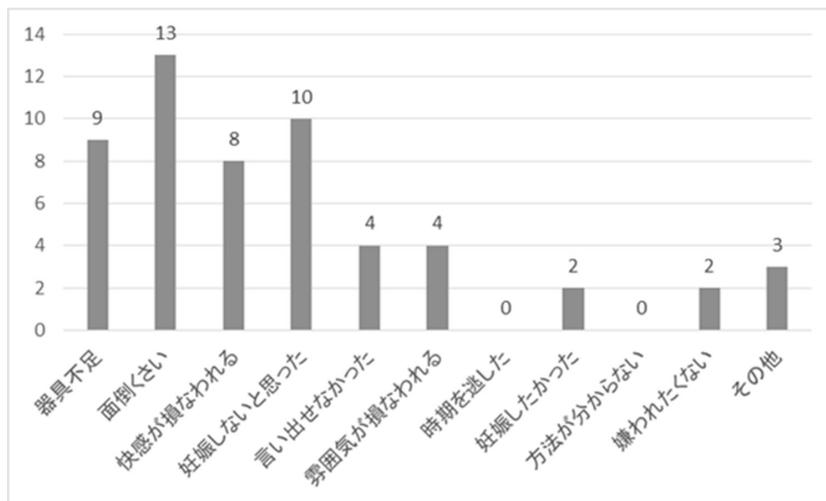


図5. 避妊しなかった理由(複数回答可)

「なぜ性行為を行おうと思ったか」という質問に対する回答は図6の通りであった。

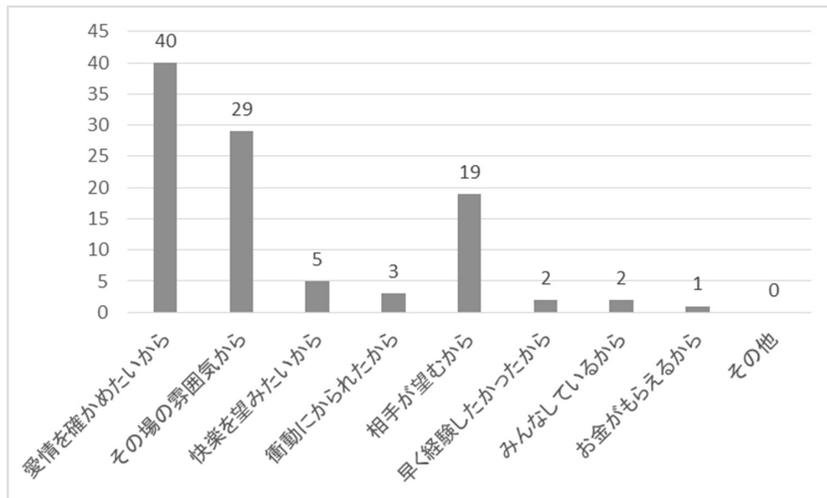


図6. 性行為を行った理由(複数回答可)

また、「大学生の男女交際で許される範囲は何でしょうか」という質問に対しての回答は図7の通りであった。その他は「相手の価値観に合わせる」という回答であった。

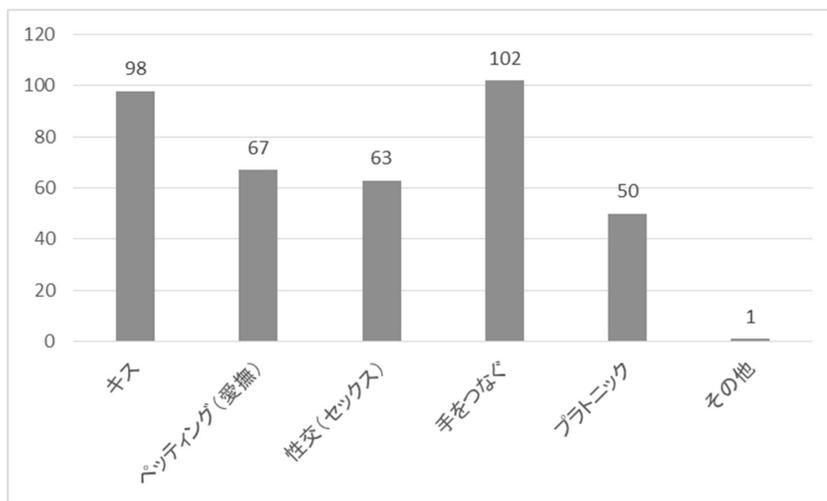


図7. 大学生で許される交際について(複数回答可)

そして、セックスの意味について設問に対して「はい」、「いいえ」の2件法で尋ねたところ、図8の通りであった。

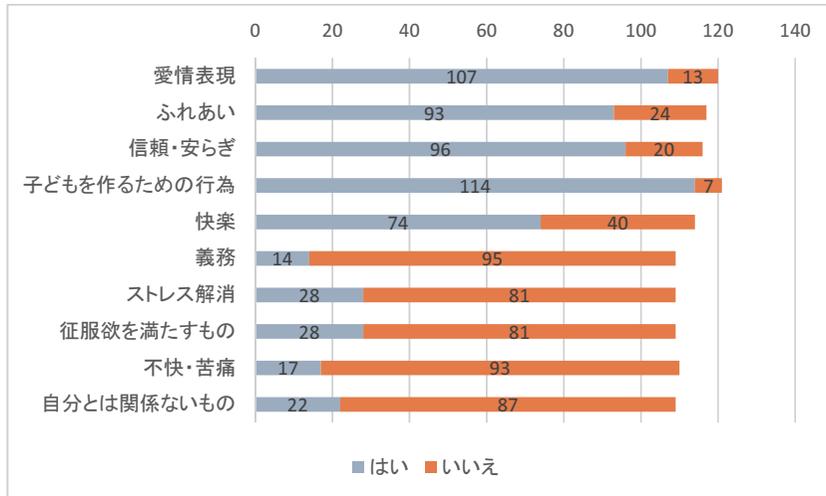


図 8. セックスの意味について

3.4. 性の情報源について

「性の情報はどこで入手しますか」という質問に対する回答は図 9 の通りであった。その他は「病院」、「教会」がそれぞれ 1 件ずつであった。

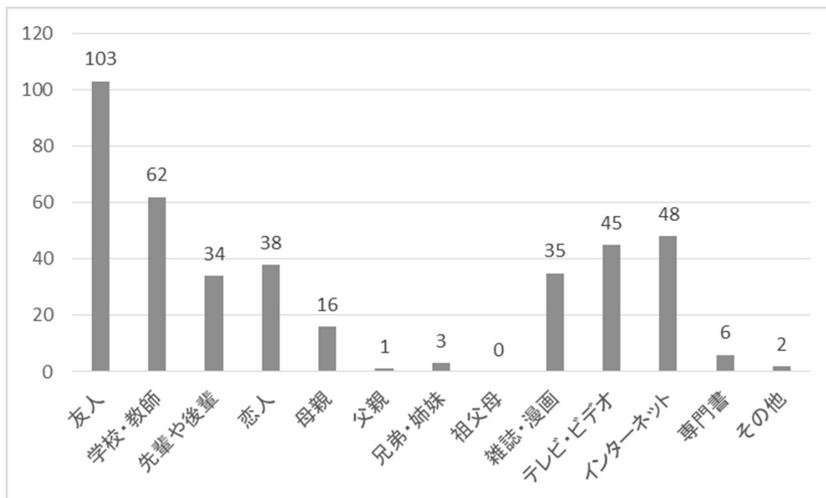


図 9. 性の情報源について(複数回答可)

また、「性について知識を学ぶものとしてよいと思うのは何ですか」という質問に対する回答は図 10 の通りであった。その他は「病院」が 2 件、「経験者」が 1 件であった。

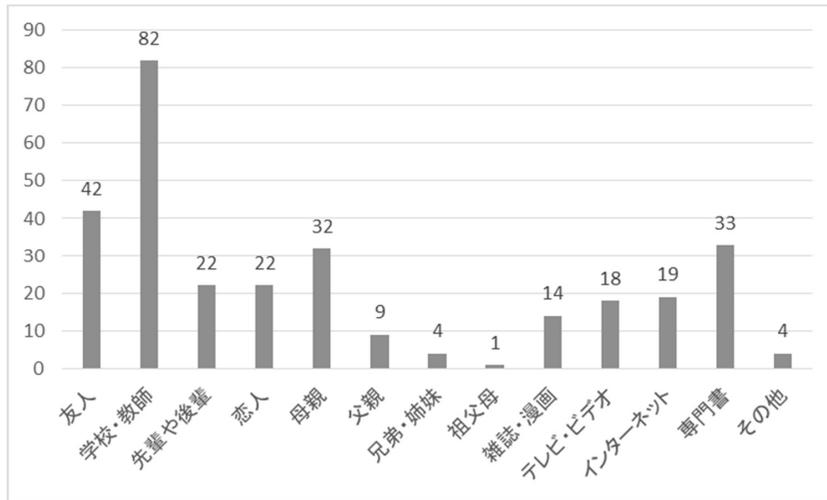


図 10. 性の情報源として望ましいと思うもの(複数回答可)

次に学校での性教育についての印象を尋ねたところ、図 11～13 のようであった。

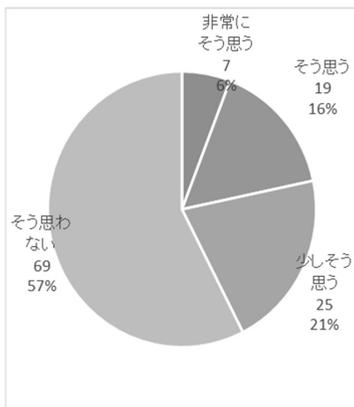


図 11. 役に立っている

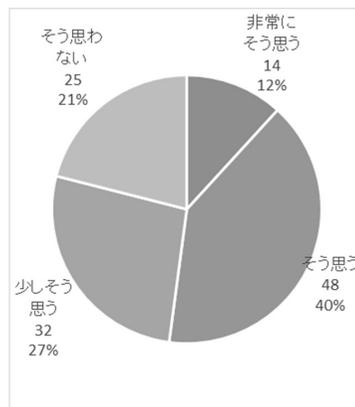


図 12. おもしろかった

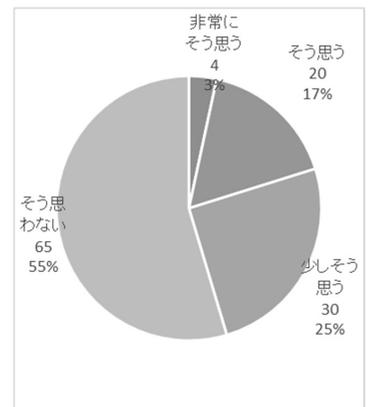


図 13. 感動的であった

3.5. 将来構想について

結婚願望について尋ねたところ、「ある」が81名(65%)、「ない」が15名(12%)、「どちらともいえない」が28名(23%)であった(図14)。また、「将来子供が欲しいと思うか」という質問に対して、「思う」が93名(76%)、「思わない」が10名(8%)、「どちらともいえない」が20名(16%)であった(図15)。

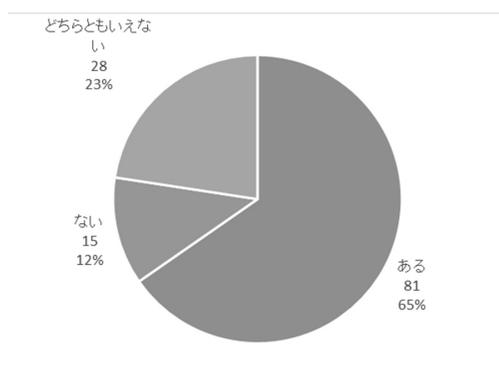


図 14. 結婚願望があるか

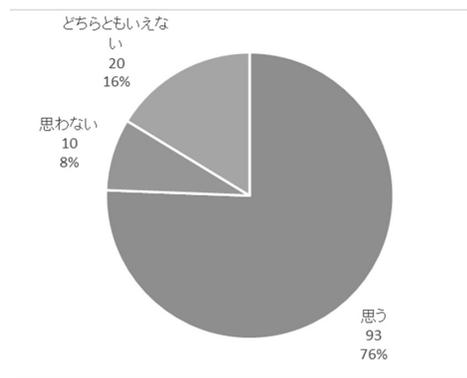


図 15. 将来、子どもが欲しいと思うか

また、「将来子供が欲しい」と答えた者に対して、「何人くらいほしいと思うか」と尋ねたところ、「1人」が6件、「2人」が52件、「3人」が30件、「4名以上」が5件であった。さらに、何歳で一人目の子供が欲しいと思うかと尋ねたところ、平均年齢は24.80歳(n=81)であった。

4. 考察

4.1. 現状について

日本性教育協会が行った第7回青少年の性行動全国調査報告¹⁾によると、「性交の経験率は男子で53.7%、女子で46.0%」であり、佐藤ら²⁾の調査では「全回答者598名のうち346名(57.9%)に性交経験があり、学年が高くなるにつれて増加している」と報告されている。今回の調査では性交経験率は43.4%であり、対象者を短期大学部1年生としていることから、入学後3か月の数値としてこれらの先行研究と大きく差はないと考えられる。

妊娠経験については、11名が「妊娠の経験(または妊娠させた経験)がある」と回答しているが、今回の対象者の中には社会人入試を経て入学した既婚者も含まれており、必ずしも未婚の妊娠であるとは限らない。しかしながら、「妊娠中絶をした」と回答したものが4件あり、望まない妊娠を防ぐための性教育の必要性がうかがえる結果となった。

4.2. 性意識について

未婚の性行為について、金田ら³⁾が行った大学生における性意識についての調査によると、「未婚のSEXについてしてもいいと思うものが男女合わせて77%、どちらとも言えないが

19.8%、してはいけないと思うものが3.0%」であり、藤沢ら⁴⁾の研究では「約84%がしてもいいと答えている」との報告がある。今野⁵⁾は大学生の性意識・性モラルと性行動の関係についての調査結果から、「最近の学生には“性交＝結婚”という考え方がかなりに薄れてきており、性交をほかのコミュニケーション手段と同じように考え行動している様子がうかがえる」と考察で述べている。しかし、今回の調査では、「結婚に関係なく、性行為をしてもいい」と答えたのは48%と半数に満たない結果であった。

また、性交経験者への質問のうち、「避妊をしなかった」という回答が15名(12%)あり、その理由として多かった順に「面倒くさい」、「妊娠しないと思った」、「器具不足」、「快感が損なわれる」などが挙げられ、避妊への不十分な準備状況や簡単に妊娠しないだろうという安易な考え方への危惧が残される結果となった。また、実行している避妊方法で、「膈外射精」が17名、「オギノ式(基礎体温表)」が1名と、不確実な避妊方法を挙げていることから、避妊に対しての正しい知識を教授する必要性が示唆された。

性行為を行った理由として、「愛情を確かめたいから」が最も多かったが、次に続いた理由が「その場の雰囲気から」、「相手が望むから」、「快楽を楽しみたいから」が挙げられ、状況に影響されやすい危うさがうかがわれる。服部⁶⁾は青年期の特徴を「大人の身体になっているにも関わらず、まだ完全な大人ではない。突き上げてくる異性に向かう性の欲動に揺さぶられながら、性を行為化して親になることや、一人前の生活者として一家をなすことを抑えて生きねばならない」と述べ、ストレスフルでスラストレーションな状況であると述べている。そうした状況下で、自分の衝動をコントロールし、相手を思いやる心をはぐくむような働きかけが大切であると考えられる。

4.3. 性の情報源について

性についての情報源として多かった順に「友人」、「学校・教師」、「インターネット」、「テレビ・ビデオ」などが挙げられていた。今野ら⁵⁾が大学生を対象に行った調査では、「友人」が最も多く、「マンガ・コミックス」、「テレビ・ラジオ」などが多く、齋藤ら⁷⁾が大学生を対象に行った調査でも「友達・先輩」、「雑誌」、「TV」、「ビデオ・DVD」という順に多かったと報告されている。

しかし、性についての知識を学ぶものとして望ましいと考えているのは、「学校・教師」が最も多く挙げられ、集団生活における教育の最後の機会にもなりうる大学(短期大学を含む)における性教育の必要性が裏付けられた結果とも言える。対して情報源として多く挙げられた「雑誌・漫画」や「テレビ・ビデオ」、「インターネット」は望ましいものとしては考えていないという結果であった。情報化社会が目まぐるしく発達している現代では、マスメディアが大きく影響していることは容易に想像できることであるが、数多くある情報の中から正しい情報を選択する能力を身につけることが必要であり、教育機関における性教育のさらなる充実した内容が望まれていることが明らかとなった。

ところが、これまで受けた性教育に関する印象については、21%(n=25)が「役に立ってい

ない」、58% (n=69) が「おもしろくなかった」、55% (n=65) が「感動的でなかった」と否定的な意見であった。仁木ら⁸⁾が行った過去に受けた性教育の内容についての調査では、「高校卒業後は発達課題がレベルアップし、人間関係にも幅や深さが増していく」ことを指摘しており、大学生の教育や指導のニーズに応えられるような対策が必要であると述べている。これに加えて、性教育の授業構成や教授方法の工夫が必要であると考えられる。

4.4. 将来構想について

結婚願望については、65%が「ある」と回答していたが、それ以上に「将来、子どもが欲しいと考えている」回答が76%と上回った。さらに、欲しい子どもの数は2人以上が多く、少子化が進む現代では望ましい回答が得られた。また、1人目を欲しいと考える平均年齢は24.80歳であり、約6年後という数字であった。短期大学部卒業後は多くが就職への道を進むことになるが、社会に出て間もなく出産を考えるには多くの準備が必要であり、将来の人生設計を構想した性教育の実施が望まれる。

5. 結語

性に関する情報が多様化する現代において、集団生活の場である学校における性教育の必要性が裏付けられた結果となった。社会に出る前の最後の教育機関となりうる大学が果たすその役割は大きく、性に関する知識のみならず、人とのつながりや相手のことを思いやる心を大切にする内容の保健教育がなされることが求められている。また、対象者の性に関する現状を把握し、課題を明らかにすることで、ニーズに合った授業構成の構築が可能となる。今後は将来を見据えた展望も含め、豊かな人生を育むことのできる内容の性教育を検討していきたいと考える。

この調査の限界性として、今回の対象となっている大学は一大学であり、結果を一般化することが難しいことが挙げられる。今後は調査対象を広げることによってより考察が深まると考えられ、さらなる調査の継続が必要と考えられる。

引用文献

- 1) 日本性教育協会 (2013) : 『「若者の性」白書 第7回 青少年の性行動全国調査報告』, 小学館, 220-225
- 2) 佐藤香代, 浅野美智留, 松本昌子 (2002) : 大学生の性の実態とこれからの性教育－除算の視点から－, 『母性衛生』, 43 (1), 28-35
- 3) 金田弓子, 宇都宮理恵, 下菌尚子 (1997) : 大学生の避妊に対する意識と行動, 『母性衛生』, 38 (1), 18-24
- 4) 藤沢良子, 高橋恒男, 早坂浩志, 立花クニ子, 高橋トヨ, 佐藤加代子, 高澤勝子 (1999) : 避妊に対する大学生の意識・行動調査, 『CAMPUS HEALTH』, 35, 596-599
- 5) 今野木綿子, 西脇美春 (2006) : 大学生における性知識・性モラルと性行動との関係, 『山

- 形医療保健研究』, 9, 33-47
- 6) 服部祥子 (2004) : 『生涯人間発達論』, 医学書院, 83
- 7) 齋藤和佳子, 芝木美沙子, 笹嶋由美 (2009) : 大学生の性感染症に対する意識と性教育について, 『北海道教育大学紀要・教育科学編』, 60 (1), 249-264
- 8) 仁木雪子, 小沢久美子 (2011) : 過去に受けた学校性教育の内容と継続のニード (第3報) - 大学生対象のアンケート調査から -, 『八戸短期大学研究紀要』, 34, 131-140

筆頭執筆者の所属と連絡先

小川 真由子 所属: 鈴鹿大学短期大学部 Email: ogawam@suzuka-jc.ac.jp

About the Sex Education in the University

From the Investigation of Sexual Awareness and Sexual Behavior
in the Junior College Students

Mayuko Ogawa, Ikumi Hikita

Summary

The purpose of this study, carrying out a survey on sexual behavior and sexual awareness in junior college students. And it is to clarify the current situation and problems.

A questionnaire survey was carried out to target the Junior College freshman 170 people. 43.4% of the students has experienced sexual intercourse. Eleven persons had been pregnant. Four of those got abortions. 48% of the students accept single sexual act. 12% of them don't prevent conception during sexual intercourse. It is desirable to know the sex knowledge from "school teachers". There are many negative impression of the sex education that they received so far. 65% of them answered that they have marriage desire: 76% of them want to have children in the future.

In the future, it is considered that would like to review the sex education of content that can nurture a rich life.

Key Words: Junior college students, sexual consciousness, sexual behavior,
sexual information sources, concept future